

## 魚津市定例記者会見 10月

日時：平成28年10月3日（月） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、北陸中日新聞社、

北日本放送、富山テレビ、NHK、チューリップテレビ、NICE TV、

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、  
企画政策課長

### 1. 市長からの説明事項

(1) リオ・パラリンピックでボッチャ団体銀メダルの藤井友里子選手に市民栄誉賞を贈呈

パラリンピックで魚津市出身の藤井選手がボッチャ団体で銀メダルを獲得された。市にとっても、とても素晴らしく明るいニュースであった。県では県民栄誉賞を授与されると発表があったところだが、魚津市でも制度を創設し魚津市民栄誉賞を贈呈することとした。贈呈日等は調整中。

(2) 「第10回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」の魚津市開催が決定

9/30～10/2 に愛知県蒲郡市で、みなとオアシス全国協議会と Sea 級グルメ全国大会が開催され、総会に出席した。かねてより、機会があれば大会を誘致したいとの声があり正式に要望し、今回の総会で来年度の総会と Sea 級グルメ全国大会を魚津市で開催することに決定いただいた。食の魅力を通じて全国に魚津市をアピールできる機会になればと思う

(3) 富山労災病院の新病棟が完成

改築を進めていた富山労災病院の新病棟が完成する。10/18 には内覧会が、11/1 には竣工式が行われる。新病棟での診療は11/7 にスタートするというので、魚津の医療機能が充実していく機会でもある。病院の存続を願い、加積地区をはじめとした地域住民の方々、澤崎前市長、労働者健康安全機構など関係各位のご尽力により新しい病院ができ、本当に喜ばしいことと感じている。市としても今後、市民の健康を支える病院としてできる限り連携、支援をしていきたい。

(4) 10月の主な行事

10/13～14 第169回北信越市長会総会 5県69市から来市

10/15～16 魚津産業フェア〇〇魚津

10/22～23 魚津市民文化祭

## 2. 質疑応答での市からの説明内容

### 「市民栄誉賞の創設」

#### 《記者からの質問》

市民栄誉賞を新たに設けたということだが、議決や選考委員会は必要ないのか。

#### 《回答》

既存の制度は、魚津市名誉市民条例と魚津市表彰規則がある。藤井さんは4年前のロンドンパラリンピックで入賞され、その時には魚津市表彰（特別功労部門）を受賞された。今回はメダリストということで、新たに市民栄誉賞を設けようということで議会の各会派代表者とも協議し、「魚津市民栄誉賞表彰規則」を制定した。オリンピックなどの世界大会で顕著な成績をあげられた方を対象とするもので、藤井さんが初の受賞者になる。

#### 《記者からの質問》

どのような手続きを経て授与が決まるのか。

#### 《回答》

名誉市民の推戴とは異なり、推薦があれば内部で協議し、議会の了解を得ながら決定する。

#### 《記者からの質問》

基本的には、世界大会で活躍した人を対象にするのか。

#### 《回答》

内規としては、オリンピック、パラリンピック、世界選手権など世界的規模の大会や世界的規模の芸術・学術コンクール等で顕著な成績をおさめられた方としている。

#### 《記者からの質問》

受賞者が、将来的に名誉市民になる可能性はあるのか。

#### 《回答》

可能性は排除しない。各界から、ぜひ名誉市民にという声が上がってくれば当然協議する。

### 「政務活動費の不正取得に関して」

#### 《記者からの質問》

富山市議会や県議会で政務活動費不正取得が問題になり、辞職する議員も続けて出ている。同じ政治家として、この問題に対する所感をお聞かせ願いたい。

#### 《回答》

市民の信頼感を大きく失う事態に発展していると痛感する。私も市議会議員の皆さんもしっかりと襟を正し、公費でもって仕事をしているという自覚をもって透明性を高める努力を重ねていかなければならないという思いがある。

#### 《記者からの質問》

公費で活動している、と言われたが主なものは何か。

《回答》

公務と政務のけじめをつけるということが一つある。典型的な例でいうと、公用車の使い方とか。議員さんの場合は政務活動費で、魚津市は月3万円交付されている。議員自身も事務局もしっかりとチェックをする姿勢が大切かと。信頼感を少しでも高める公開のあり方を考えていく必要がある。

《記者からの質問》

適正に政務活動費が使われているのかを、例えば支出の相手先をチェックするような機関を設ける予定はあるのか。

《回答》

議会での議論の中身まで直接タッチしてはいないが、議会事務局長からは相当厳しくチェックしていると聞いている。議会自身の努力として透明性を高めるというほうがいいとは思っている。

《記者からの質問》

守秘義務のある内容を議員に漏らすなどという事態もあった。公務員としての自覚、基本的な認識が不足しているように見受けられる。魚津市でも職員教育をすることはどうか。

《回答》

職員の意識や自覚を高めるよう、徹底したい。

「県選管で市議の当選無効裁決」

《記者からの質問》

県選管で、市議の当選無効が裁決された。市選管とは異なる判断となったわけだが、市長の感想をお聞かせ願いたい。

《回答》

それぞれの選挙管理委員会が「生活の根拠」を資料に基づいて判断をしたということであり、その判断が（県選管と市選管で）異なったということ。どちらがどうという感想はない。さらに調査をするのか、一つ上のステップに入るのか、状況を見ていきたい。

《記者からの質問》

市で何か対応はあるのか。

《回答》

市での対応は特段ない。

「魚津市で今月開催の北信越市長会について」

《記者からの質問》

魚津ならではの内容、例えば魚津に密接したテーマや議題などがあるのか。

《回答》

5県69市共通の課題などについて協議し、国等へ要望するための会議なので、

魚津市らしさを出す場ではない。ただ、来市された方々におもてなしを含め、見てもらう場所や記念品などで魚津をPRしたいと考えている。

《記者からの質問》

参加人数はどのくらいになるか。

《回答》

二百数十名規模を見込んでいる。

「台湾インバウンドの事業検証」

《記者からの質問》

台湾インバウンド推進事業がスタートしてそろそろ1年になる。招待費用など1千万近くの経費をかけてきたかと思うが、費用対効果などそろそろ検証し、これを続けるのかどうかを考える時期ではないかと思う。市長は今後どう進める考えか。

《回答》

費用対効果の検証をする必要はあると思うが、まずは関連のところ（市と観光協会）だけで取り組むというよりはもう少し幅を広げられないかという思いを持っている。例えば民間企業なり、農業関係者なり、産業の分野と観光を結びつけたような形で、台湾の皆さんに自然と食の魅力を知ってもらおうと。それと広域的な取り組みをしないと厳しい。魚津単体でツアーを組み（観光客を）呼ぶのは難しいところもあるのでそういうことを考えていく必要があると思っている。せっかく台湾の甲種旅行業協会との信頼関係もでき、現地メディアや有名ブロガーさんとのネットワークも広まりつつあるので、取り組みを深めながら国内では連携し展開していく必要があるのではと思っている。

夏ならアルペンルートに来たお客さんに寄っていってもらおう工夫、冬なら雪景色を見せる工夫もあるのでは。シーズンごとの観光と地域の連携を考えながら、今後も取り組みを続けていきたい。